

長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第3回 教育・文化部会	
日時	平成22年11月10日（水）午前9時30分から午前11時45分	
会場	長野市役所第一庁舎8階第一委員会室	
出席者	作業部会員 （敬称略）	石塚弘登、藤沢謙一郎、山岸恵子、毛涯 伸、轟 繁満、宮澤俊弘、宮澤 博、山崎弘道
	関係課員	庶務課、秘書課、障害福祉課、保育家庭支援課、観光課、教育委員会事務局総務課、学校教育課、生涯学習課、文化財課、体育課 企画課（事務局）

I 会議次第

- 1 開 会
- 2 市民フォーラム21 第2回 教育・文化部会 会議概要について
- 3 ワークショップのまとめについて
- 4 本日の日程等について
- 5 ワークショップ
テーマ1：政策4-3 ゆとりと潤いを感じる多彩な文化の創造と継承
テーマ2：政策4-4 躍動する生涯スポーツの振興と競技力の向上
- 6 その他
(1) 今後の予定について
(2) 事前課題シートについて（11月24日開催）
- 7 閉 会

II 会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 3 ワークショップのまとめについて
「地域から広がる国際交流の推進」をテーマにワークショップで検討した意見を資料1のとおりまとめることで確認した。（第2回 教育・文化部会 10月20日開催）
- 4 本日の日程等について
ワークショップには、当初の予定では参加しないこととしていた専門部会員も参加することが承認され、出席者全員でワークショップを開催することとした。
- 5 ワークショップ
テーマ1：政策4-3 ゆとりと潤いを感じる多彩な文化の創造と継承
テーマ2：政策4-4 躍動する生涯スポーツの振興と競技力の向上
2グループに分かれ、ワークショップを行った結果、別紙のとおり発表があった。

文化財(所)

善光寺を中心に、門前町が継承されている。

長野には、善光寺の門前町としての文化がある。

善光寺・戸隠など文化遺産が多い。

市内には文化財が非常に多い。

長野といえば、善光寺という印象が強い。

パワースポットとして注目されている。

松代では文化財の登録を進めている。

松代地区全体の重要伝統的建造物保存地区指定を目指している。

松代の伝統的街並み保存事業が進み、景観整備が進んでいる。

松代における文化財について、点から面への転換が必要である。

真田邸の公開により、文化財を利用することが身近に感じるようになった。

文化財を使いながら守っていくという視点が十分かどうか疑問である。

街づくりに対する地域(松代)の環境(住民意識の醸成等)が整えられている。

善光寺の世界遺産登録運動が広まらない。

善光寺御開帳回向柱寄進の歴史を踏まえ、松代との普遍性を語る必要がある。

街並み

見える街並みは、比較的美しい。

国内の魅力ある都市(京都、金沢など)は、路地裏が美しい。

歴史と文化を具現化した地名は変更してはならない。(若里⇒アークス、返目⇒三輪)

文化事業

長野市民は、美術鑑賞に造詣が深く、興味がある。

東京などへ行かなければ、鑑賞できないコンサートがある。

鑑賞できる公演の開催が少ない。

文化芸術事業の種類も機会も少ない。

公演があっても観客が少ない。

鑑賞型事業よりも参加・育成型事業を展開する。

リアルタイムに展覧会、個展、催し物の情報発信を公的な立場で取り組む。

情報が簡単に入手できる場やHPの設置に取り組む。

芸術家と市民のコミュニケーション、コラボレーションが必要である。

アジア文化交流の推進と文化財のセットでNAGANOを発信する。

長野の特色を持つ芸術活動が欲しい。

文化の特徴がないのなら、これから作れば良い。

野外彫刻

野外彫刻ながのミュージアム構想(市全域がミュージアム)を推進している。

野外彫刻の設置が継続して進められている。

野外彫刻は適材適所に設置する。

ミュージアム構想には賛同するが、一点集中して目玉を作ることも必要である。

旧町名の復活を進める。

文化都“長野”を象徴する県都の駅として、建物が貧弱である。

文化振興拠点、中味、運営

文化芸術及びスポーツの振興による文化力あふれるまちづくり条例を制定した。

長野市は、文化芸術振興計画を策定した。

芸術文化活動を推進する専門部局を早急に設置する必要がある。

(財)長野市体育協会のような組織が芸術文化関係にも必要である。

(財)長野市文化振興事業団を設立する。

市民会館は、場所よりも運営が大事である。

アーティストによるアウトリーチ(出張コンサート)を推進する。

長野市は、50年に一度の芸術文化活動の拠点施設を建設しようとしている。

市民会館の建設地が二転三転し、建設地の決定が遅れた。

新市民会館には、文化芸術の拠点として、機能の充実が必要である。

文化施設利用において、障害者利用スペースが限られている。

(博物館分館としての信州新町美術館はあるが)長野市立美術館がない。

作曲家小山清茂、童謡作家海沼実等に因んだ音楽博物館が必要である。

人材

文化の牽引が行政頼みになっている。

文化リーダーとなる人材が不足している。

Art 彫刻家や美術家が育っていない。

文化振興のリーダーはわかりやすい説明をする必要がある。

表現スペース

学校の美術の先生が絵を描かなくなった。

市民アトリエとして創造館を作る。

芸術文化に係る市民活動を助長する機能が不足している。

トイゴを中心に商店街のウィンドーを展示利用する。

絵画、書等の生涯学習事業の予算を充実する。

絵を鑑賞できる施設が不足している。

学習室が欲しい。

学校の設備を利用する。

子ども

伝統的な催し物に子どもたちがなかなか触れられない。

子どもたちの文化芸術事業の機会が少ない。

中学生を取り巻く環境が整っていない。

少子化により統廃合された学校校舎の行方が心配である。

働く子育て世代に余裕がない。(核家族、母子家庭)

参加したくても託児を求めて欲しい。

市の文化部局に専門家(プロデューサー)が必要である。

文化財ボランティア人数の維持・拡大が必要である。

芸術文化の街づくりに専門コーディネーターが必要である。

政策4-4 躍動する生涯スポーツの振興と競技力の向上

別紙

生涯スポーツ

スポーツに取り組むことで、人は成長する。

市民の健康への意識が高まっている。

健康意識が高まり、運動に取り組む人が増えている。

高齢者のスポーツ活動が盛んになっている。

高齢者を対象としたスポーツ教室の開催が必要である。

身体活動の意義や価値を市民に理解してもらう必要がある。

働き盛り(運動不足)世代を含め、市民皆スポーツのまちづくりを目指す。

長野オリンピックマラソンが市民の健康志向を高めている。

市内を走る市民ランナーを良く見かける。

集団スポーツから個人スポーツへの関心が高まっている。

個人競技の単発的な講習会の開催が必要である。

観るスポーツ

スポーツは参加する楽しみだけでなく、応援する楽しみもある。

箱根駅伝には人をひきつける力がある。

スポーツが多様化している。

冬のスポーツを除き、一流(プロ)のプレーを生で見る機会が少ない。

プロ野球の試合をもっと多く開催してもらう。

国際大会など、観るスポーツを多く開催する。

選手のためだけでなく、一般の人のスポーツ振興が必要である。

地域スポーツの参加は、高齢者と子どもだけになっている。

子どもたちが外に出て遊ばなくなっている。

1日の子どもの歩数が少なく、高齢者になってからの運動機能が心配である。

生涯スポーツの振興を図るには、子どもの時期にスポーツの楽しさを教えてあげる。

スポーツの楽しさを教えるには、競技的なものを感じさせることも必要である。

小さいうちに、多くのスポーツを体験させる。

児童館、児童センターでのスポーツの取組・拡大が必要である。

公民館事業が盛んなので、生涯スポーツの振興に役立っている。

ニュースポーツに対しては、体育課の出前講座が役立っている。

障害者スポーツの振興は、障害者スポーツ協会がスポーツに親しむ機会を提供している。

競技力の向上

全国大会など、ハイレベルの大会が市内で開催されている。

全中スケート大会が10年間、長野市で開催することが決まっている。

子どもにスポーツの楽しさを教えることが競技力の向上につながる。

国際大会が開催されると、市民や子どもたちがトップアスリートを間近で見られる。

冬季スポーツは国際大会が開催され、子どもたちが技術を学べる。

長野市スキースポーツ少年団の活動の場が市外である。

長野市スキースポーツ少年団に専用ゲレンデを提供するなど、配慮が必要である。

指導者・コーチ

スポーツ振興の推進者としての体育指導員や指導者バンク制度がある。

スポーツ指導者バンクの登録者が少ない。

求められている競技種目の指導者がいない。

高齢でもスポーツの指導・コーチができる人がいるはず。

指導者の資格を活かす機会が少ない。

指導者の育成が必要である。

良い指導者を育成し、一流のスポーツ選手を育てる。

優秀な指導者を招へいすることが必要である。

公認スポーツ指導者を活用する。

幅広い市民のニーズに対応ができる指導者を養成することが必要である。

指導者の生活基盤を支えることが必要である。

学校の部活動指導者の負担が大きい。

部活動に熱心な先生がいる学校は部活動が活発である。

学校スポーツの支援体制が必要である。

ソフト面の更なる充実が必要である。

地域が支えるスポーツ

市長がスポーツに対して理解がある。

総合型スポーツクラブの仕組みが浸透していない。

冬季スポーツをもっと活性化させたい。

こどものスポーツ活動を支える親の負担軽減が必要である。

親の負担軽減には、親子一緒に楽しめるスポーツ環境を作る。

スポーツ選手(学生)の就職が難しくなっている。

民間企業がスポーツから離れている。

オリンピック施設を活用して国際大会が開催されている。

オリンピック開催地として、地の利を活かす。

体育施設

体育施設の数は、他市と比べても多い。

スポーツ施設が整備されている。

社会体育施設が一般に開放されることで、生涯スポーツに役立っている。

オリンピック施設をはじめ、社会体育館の施設が多く充実している。

北信越5県の中では、マイナースポーツの施設整備が遅れている。

大規模施設を含め、施設数が多いため、維持管理が容易でない。

体育施設の利用希望者が多く、施設利用予約が大変である。

体育施設の予約ができない。空いていない。

体育施設が不足しており、有効に使用できるシステムを考えることが必要である。